

➤ 9日 金曜

民数

21:1 ネゲブに住んでいたカナン人アラドの王は、イスラエルがアタリムの道を進んで来たと聞いた。彼はイスラエルと戦い、その何人かを捕虜として捕らえた。

21:2 そこでイスラエルは【主】に誓願を言った。「もし、確かにあなたが私の手に、この民を渡してくださるなら、私は彼らの町々を聖絶いたします。」

21:3 【主】はイスラエルの願いを聞き入れ、カナン人を渡されたので、イスラエルはカナン人とその町々を聖絶した。そしてその場所の名をホルマと呼んだ。

21:4 彼らはホル山から、エドムの地を迂回しようとして、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中で我慢ができなくなり、

21:5 神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物に飽き飽きしている。」

21:6 そこで【主】は民の中に燃える蛇を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。

21:7 民はモーセのところに来て言った。「私たちは【主】とあなたを非難したりして、罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう【主】に祈ってください。」モーセは民のために祈った。

21:8 すると【主】はモーセに言われた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上に付けよ。かまれた者はみな、それを仰ぎ見れば生きる。」

21:9 モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを



旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。

この戦いはイスラエルから仕掛けたのではなく、また勝手なものでもありませんでした。主に誓願をして、その信仰を表わしつつ行ったものです。当然、主は勝利を与えてくださいました。

私たちに与えられる勝利もこのようなものです。自分勝手な願いからチャレンジしても、良い結果はありません。信仰を表すために、また主の栄光を表わすために、主の御心を聞いてチャレンジしましょう。

イスラエルはまたしても神とモーセに逆らいました（4節～）。もう数え切れないほど主に逆らったのですが、それはまさに私たち人間の姿でしょう。神様の忍耐と赦しはもう残っていないと思えます。しかし主は、青銅の蛇によって彼らの命を救ってくださいました。これはまさにイエス様の型です。もう赦しの余地などないだろうという罪のために、主イエス様は呪われた蛇のようになって、あの十字架で死んでくださったのです。

感謝しつつ、どんな罪でも、主に言い表して赦しときよめをいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

